



1年 藤代 紗矢さん



『お花のこうえん』

※わたしは、お花がすきなので、お花がさいているこうえんをつくりました。

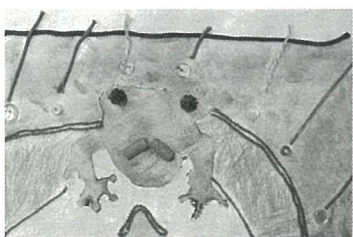


2年 加瀬菜々美さん



『りゅうの目のなみだ』

※りゅうを大きくかいたり、きれいな色でぬつたりすることをがんばりました。



『雨の日のかえる』



3年 鈴木 伊織さん

※かえるがよるこぶように、おはじきと糸で雨を表して、はながを作りました。



『月を見ているねこ』

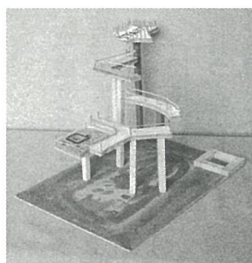


4年 土屋 佳穂さん

※親ねこ子ねこが、生きているようなイメージをもつて楽しくかけました。



5年 関川 祐くん

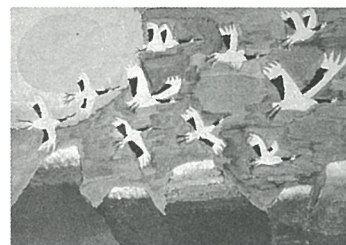


『赤いコリントゲーム』

※スタートに段差をつけたところ、ゴールに穴を開けたところを工夫しました。



6年 高橋 克弥くん



『お話「百羽のつる」』

※お話を聞いてつるが集まって湖に飛んでいく場面を描きました。

あつまれ みんなの力作



地へ潜む草木の生命冬に入る

選評 椎名しげる

立冬の風にポプラは葉を剥がれ

伊藤 幸枝 (尾垂)

立冬や雀の宿る厨口

山崎 てい (二又)

腰強き手打ちうどんや冬来たる

大谷 武彦 (木戸)

老夫婦無言で通ず今朝の冬

鈴木とし子 (宝米)

浮雲の流れは静冬に入る

伊藤 定男 (尾垂)

母想う五十年忌の冬立つ日

川島 通則 (二又)

五十年忌に集った親類縁者で母の人柄などが話題となった。上五は直情的なので推敲の要あり。

身をさすり息災祈る今朝の冬

大木 素風 (二又)

揚句は高点句。当クラブ員の大半は高齢者であり無事息災を願う気持は変わらない。

入り相やたちまち暮るる鴨の貌

布施 和代 (二又)

沼か川か、何れにせよそこに遊ぶ鴨の陰影を通して短日の光景を自然観照的に詠む。

ひかり俳壇

